

まちの芸術

野外彫刻を楽しむ

公園や学校など、身近なところにある野外彫刻。設置されている環境と調和して美しい景観をつくることも、見る人にさまざまなことを語りかけます。今月は、区内にある野外彫刻の中から、敷地外からを含めて、誰でも見ることが出来る作品を紹介します。



平成元年に、厚別公園競技場を主会場に開催された「はまなす国体」を記念するモニュメント。高さ約16メートル、幅8メートル、奥行10メートル、表面に人工的にさびを浮かせた鋼鉄を40トンも使った壮大な作品です。広大な北の台地と、風に向かって立つ人々の雄々しい姿が表現されています。

札幌市在住の彫刻家國松明日香さんの制作で、64点の候補作の中から第4回本郷新賞を受賞しています。「素材を生かした、どっしりと重みのある立体構成が基本になり、全体としては軽快で、見る方向により変化するのが面白い。また、全体が空に向かって上昇していく数学的・幾何学的密度を感じず」と講評されました。

● 本郷新賞 ●

全国に数多くのモニュメント彫刻を残した、札幌出身の彫刻家本郷新。本郷新賞は、その半世紀にわたる業績を記念し、彫刻芸術の振興に寄与するという趣旨で、(財)札幌彫刻美術館（中央区宮の森4条12丁目）が隔年で行っています。過去二年間に全国の公共空間としての広場、公園、街路、公共建築物などにモニュメントとして制作・設置された彫刻で、常時誰でも鑑賞できる場所に設置されているものを対象に、一点を選考し授賞しています。

